

# 福島県 中学教育

発行所  
 福島県中学校教育研究会  
 責任者 丹治 光夫  
 印刷所  
 (株) 第一印刷  
 福島市岡島字古屋館1番2  
 TEL 024-536-3232

- 巻頭言「未来を生きる子どもたちのために」……………福島県中学校教育研究会 副会長 遠藤 修一 …… (1)
- 随想「中教研における特別支援教育について」……………福島県中学校教育研究会 副会長 佐藤 恭司 …… (2)
- 随想「恩返し」……………福島県中学校教育研究会 事務局長 高澤 正男 …… (2)
- 令和5年度 運営方針及び事業計画(案)…………… (3)
- 令和5年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方…………… (4)
- 令和5年度 研究推進計画(案)…………… (5)
- 令和5年度 基本主題及び各専門部研究主題…………… (6)
- 令和4年度 支部の活動状況(東西しらかわ, 耶麻)…………… (7)
- 専門部のあゆみ(数学, 保体)…………… (8)
- 令和5年度 総会・支部長会・支部専門部長会についてのお知らせ…………… (9)
- 令和5年度 福島県中学校教育研究協議会 いわき大会要項(案)…………… (9)
- 令和4年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧…………… (10)

## 巻頭言

# 未来を生きる子どもたちのために

福島県中学校教育研究会 副会長 遠藤 修 一



新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を  
 考えながらの学校教育活動も3年間  
 が過ぎようとしています。そのよう  
 な中でも学校教育環境の改革は次々  
 と始まっています。タブレット等の  
 導入によるICT教育の推進、小学校  
 における教科担任制の導入、週末に  
 おける中学校部活動の地域移行など  
 の部活動改革等、多岐にわたります。

福島県の中教研も学校数の減少やそれに伴う会員数減少な  
 どで、研究会の運営自体が苦しくなっている教科もあります。  
 支部によっては、会員が一人という教科もあるそうです。  
 会津地区では、昨年度から柔軟な取組ができるように働  
 きかけてきましたが、今年度は会長さん始め県の事務局の皆  
 様のおかげで、県中教研の在り方も改革を進め始めることが  
 できました。どのような地区であろうと子どもたちにとって  
 より良い教育ができることが大切です。研修を深めたい教員  
 にとって、他の教員の授業を見たり、それに基づいた話し合  
 いができる環境が大切だと思います。特に、初任者や経験が  
 少ない教員にとっては、自分の悩みや考えを話せる場がある  
 ことがその後の教員生活に役立つと思います。それを子ども  
 たちの指導に役立てていくことが、「未来を生きる子どもた  
 ち」のためになるのではないのでしょうか。教員が必要として  
 いる教員研修の場を設定していくことが、中教研の存在価値

だと、今年度「会津大会」を実施して強く思いました。

いろいろと改革を訴えた会津地区ですので、県大会をお受  
 けした以上は、「①どのような形でも実施する」ということ  
 を最大の目標にしました。やることをやらないで要求だけす  
 るのは、子どもたちを指導する教員としては恥ずかしいこと  
 だからです。しかし、このコロナ禍の中で対応は必要でし  
 た。そこで、「②人はできるだけ集めない」という2つめの  
 原則を確認する必要がありました。さらに、今年度になって  
 スタートしたので、「③お金はかけない(かけられない)」  
 ことも重要でした。これらの3原則に理解を示して頂いた会  
 長始め県の事務局の皆様や会津地区の校長先生方、さらには  
 短い期間の中で諸行事を抱えながら取り組んでくれた会津地  
 区の会員の諸先生方には深く感謝申し上げます。

今年度の会津大会のやり方には、否定的な考え方の会員も  
 いらっしゃるかと思いますが、教員の研修のために工夫して  
 研究協議会を運営するという一つの形を示すことはできたと思  
 います。

「未来を生きる子どもたちのために」、我々教員が日々研  
 修し、自己研鑽に努めることができる場としての中教研の在  
 り方を、これからもより良くしていきたいと思えます。そし  
 てより多くの教員が会員としてそれらを推進していくことを  
 願い、巻頭言といたします。ありがとうございました。

**【お知らせ】** 各専門部の「令和5年度部報」は、ホーム  
 ページよりダウンロードしてご使用ください。



## 随想

## 中教研における特別支援教育について

福島県中学校教育研究会 副会長 佐藤 恭司

12年前、特別支援教育担当指導主事をしていた時の話です。地区の小中学校長会の特別支援教育研修会で、ある校長先生から「個別の支援計画、個別の教育支援計画、個別の指導計画の違いがさっぱりわからない」と質問を受けたことがあります。当時、インクルーシブ教育や授業のユニバーサルデザインといった特別支援教育用語が立て続けに出てきた頃です。最近では、平成28年4月1日より「障害者差別解消法」が施行され、この中にある「合理的配慮」は、障がいのある児童生徒らに必要な環境整備などの配慮を行うということも周知の通りです。現在では、各小中学校には、様々な障がい及び障がいを疑う生徒が複数名在籍するようになりました。これは、医学の進歩と発達障害など診断名がつくことで、各市町村の就学指導審議会にあがるケースが増え、学びの場も本人や保護者の意向により、地域の小中学校に就学を望むようになったことも一つだと思います。生徒は、障がいの実態に応じ、通常学級で学んだり、知的障害学級、情緒障害学級に入級し、交流学級や通級指導教

室で自立活動を学んだりと個に応じた学習も行われるようになってきました。一方、教科学習を行う中で、障がいを持つ生徒への指導の難しさ、関わり方などに悩む教員も増えています。集中力に欠け、立ち歩いたり、場にそぐわない発言などで授業が中断したりするケースも報告されています。これまで以上に、教員は授業の準備や教材の工夫が求められるようになりました。

インクルーシブ教育の目指すべきところは、障がいの有無にかかわらず可能な限り一緒に学ぶこと、そして教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要とされています。今後も支援を要する生徒が増えることを考えたとき、中教研が出来る「合理的配慮」を取り入れた授業改善や学習環境のあり方、生徒への指導・支援など、先生方が指導の不安や悩みを相談・解決できる体制づくりが急務だと考えます。特別支援教育の特別が、特別でなくなる日のために出来ることを考えていきたいと思えます。



## 随想

## 恩返し

福島県中学校教育研究会 事務局長 高澤 正男

どうしていいかわかりませんでした。初任の小学校から中学校に異動し、中学3年生の授業を担当するようになった私は、途方にくれました。授業をどう進めたらよいかわからなかったのです。五里霧中、暗中模索、試行錯誤の日々でした。毎時間必死でした。

すがりような思いで、夏の地区中教研研究協議会に参加しました。先生方の実践報告を聞き、「もっと聞きたい」「もっと知りたい」「できれば授業を見たい」と思ったものです。

次の年、研究推進委員になりました。実践発表をすることになっていました。人前で発表するのだから、それなりの授業をしなければならぬと考えました。追い込まれて本を読んだり、人の話を聞いたりして勉強しました。結果的に、これがよかったと思います。

20代後半から30代前半の時期に、毎年のように発表の機会をいただきました。あの頃は勢いしかありませんでした。発表しても、どうもベテランの先生方の反応がよくないのです。

ある年、一回りほど上の先輩の方の発表がありました。それは、教材研究そのものの発表でした。今までの発表とは違ったもので出色でした。「そういうことか」と頭をハンマーでなぐられたような衝撃がありました。

私の発表は、「こういうことをやってみました」という上辺だけの指導法の紹介だったのです。その先輩は、「大事なものは、そういうことではないよ」と伝えたかったのだと思います。

支部を代表して、福島県中学校教育研究協議会に参加したこともありました。公開授業を参観し、各支部からの発表を聞き、初めて福島県内の様子がわかりました。その場の空気を肌で感じ、刺激を受け、ますますやる気が出てきたものです。

中教研を通じて、様々な業務に携わらせていただきました。おかげで人とのつながりができました。人的ネットワークは、今でも大きな財産となっています。また、自分のキャリア形成、キャリアアップにつながったことは間違いありません。

昨年、11年ぶりに中教研に復帰し、縁あって県中教研事務局の仕事をしていただいています。常に、約2,800名の会員の皆様の思いや願いを受け止めながら、育てていただいた中教研への“恩返し”のつもりで、変わりながらも時代の要請とともに前に進む中教研のあるべき姿を考えています。これからも人を育てる中教研であり続けるために、力を尽くしていくつもりです。

## ◆ 令和5年度運営方針及び事業計画(案) ◆

### 1 運営方針

生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒を育てるため、会員一人一人が教育者としての自覚と使命感に基づき、自己研鑽を深め、切磋琢磨して、資質の向上を図り、中学校教育を一層充実振興する。

- (1) 基本主題設定の趣旨と各専門部の研究主題により実践研究を深め、各支部活動・各専門部活動を充実し、その成果を共有する。
- (2) 授業の質的改善を中核に研究を推進し、生徒の学力の向上及び心の教育の充実に資する。
- (3) 学習指導要領の趣旨やねらいに基づき、新しい教育の方向を見据えて研究活動を推進し、会員の資質向上を図る。
- (4) 双葉支部については、相馬支部と合併した相双支部として活動が円滑に運営され充実したものになるよう支援する。

### 2 努力事項

- (1) 研究活動の充実
  - 基本主題並びに各専門部の研究主題、副主題の趣旨、ねらいの理解を深めるとともに、その解明に努める。
  - 前研究主題での成果と課題を踏まえ、研究主題設定1年次の研究課題を明確にして研究を推進する。
  - 会員一人一人の教育の実践研究の成果を支部研究

協議会や県研究協議会を通して共有し、研究内容の一層の質的改善を図る。

- (2) 研究奨励事業の推進
  - 会員の自発的な研究活動を促進し研究内容の質的充実を図るとともに、研究活動事業を推進する。
  - 生徒の学習や自主的活動を奨励し、学習成果の発表等の推進を援助する。
- (3) 広報、出版活動の充実活用
  - 会報や各専門部部報の内容を充実させ、各支部、各専門部の情報交換や会員の教育活動に資する。
  - 研究集録の充実に努め、研究発表や研究協議会の成果の共有化を図る。
  - 学習指導について有効に活用できる広報活動の充実に努める。
- (4) 事業運営の工夫
  - 会議や研究協議会等の効率的な運営改善に努める。
  - 県研究協議会の運営に対する適正化について一層の検討を重ね、今後の研究会等の運営について工夫改善を図り、また、予算を効率的、且つ適正に運用する。

### 3 事業計画

月 日	行 事 名	内 容	会 場	備 考
4月中旬	支部総会	支部総会、専門部総会	各支部	
5.11(木)	総会・支部長会(午前) 支部専門部長会(午後)	総会：各支部長のみ参加、 支部専門部長会：主題研修、専門部研究方向決定	福島市	
5.25(木)	理事会	県研究協議会の運営、主題研修会の反省、ワークブック刊行計画、専門部の経理事務の進め方、研究作品第一次審査	福島市	県専門部長、県事務局
6.7(木)	研究作品審査会	研究作品第二次審査	福島市	県事務局
7月上旬	機関誌発行①	第145号(総会特集など)		
7月下旬	各支部研究協議会(夏季)	令和5年度研究主題による研究協議会、県研究協議会参加者の決定	各支部	
8.21(月)	委員・理事合同会①	総会の反省、県研究協議会の運営、ワークブック刊行、研究作品審査結果	福島市	各支部長、県専門部長、 県事務局
9月下旬	機関誌発行(特集号)	研究作品『優秀賞』特集		
9.11(月)	ワークブック契約会	令和6年度使用ワークブックの契約	福島市	関係県専門部長、県事務局
10.5(木)	県研究協議会いわき大会	授業公開、各専門部研究協議会	いわき地区	
10月~11月	各支部研究協議会(秋季)	令和5年度研究主題による研究協議会、県研究協議会の報告	各支部	
12月~2月	各専門部会	各専門部の研究推進、部報発行		
12月中旬	研究集録発行	県研究協議会いわき大会のまとめ、研究主題の解説		
1.17(木)	委員・理事合同会②	令和6年度運営計画、総会・支部長会・支部専門部長会	福島市	各支部長、県専門部長、 県事務局
2月下旬	研究作品提出締切り	令和6年度各支部研究作品提出		
3月上旬	機関誌発行②	第146号(令和6年度運営計画、研究主題、研究推進)		
3.14(木)	会計監査	令和5年度会計監	福島市	県事務局

- ※ 令和5年8月4日(金) 県中学校美術ゼミナール (郡山市)
- ※ 令和5年9月8日(金) 県下小・中学校音楽祭(第1部合唱) (須賀川市文化センター)
- ※ 令和5年9月14日(木) 県中学校英語弁論大会 (会津若松市文化センター)
- ※ 令和5年10月13日(金) 県下小・中学校音楽祭(第2部合奏) (白河文化交流館コミネス)
- ※ 令和5年12月1日(金) 県生徒造形作品研究会並びに秀作審査会 (郡山市青少年会館)

#### ◇ 県中教研事務局会

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 第1回 4月19日(木) | 第4回 10月26日(木) |
| 第2回 7月27日(木) | 第5回 1月10日(木)  |
| 第3回 8月31日(木) | 第6回 2月21日(木)  |

# 令和5年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方

基本主題：「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

## 1 基本主題設定の趣旨

これからの時代は、生産年齢人口の減少、グローバル化や技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に大きく変化する中、急激な少子高齢化が進み、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。また、人工知能（AI）が飛躍的な進化をとげ、雇用の在り方や学校で獲得する知識の意味に大きな変化がもたらされても、思考の目的を与えたり、目的の正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっていくとも言われている。

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

令和4年度から、新たな基本主題「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」に基づき研究を推進しているが、令和3年度に新学習指導要領が全面実施となったことを踏まえて、今までの研究成果を基に、各教科で「主体的・対話的で深い学び」をさらに具体化、深化させる3年間の研究になると考える。また、「生きる力」という理念をより具体化した「社会を生き抜く資質・能力」を育むには、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を各教科等において明確にすることが重要になる。

新たな基本主題には、震災から10年以上が経過しても、子供たちが変化する社会の中で、ふるさとふくしまに思いを寄せ、復興の中心となって新たな

未来を創造するために活躍できる人材に育つことを願い、県中教研として、そのような生徒を育てなければならぬという使命感も込めた。

各専門部においては、これまでの研究の成果及び課題を十分に踏まえながら、これらの趣旨に基づき、会員一人一人が、本会の目的に適合した主体的な研究が発展的に推進できるよう、創意工夫が望まれる。

## 2 研究の進め方

東日本大震災から10年以上が経過してもなお厳しい教育環境の中にあって、「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である」ことを肝に銘じ、本会設立当初の「教育を愛する者が、愛する生徒たちのために、自分に鞭打つその鞭を求めて集い合う研究団体である」という原点に立ち返って、教師としての情熱と使命感をもって研鑽に励むことが望まれる。

各支部・各専門部は、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえつつ、基本主題設定の趣旨を十分に踏まえた上で、研究のねらい、内容や方法を明示して研究実践に取り組む必要がある。そのために次の点をおさえて実践内容の重点化を図り、研究の深化が得られるように努力する。

- (1) 基本主題、研究主題・副主題の設定の趣旨の周知を図り、その趣旨が十分に生かされた研究実践を推進する。
  - 会員の共通理解に立った研究計画のもと研究を実践する。
- (2) 各支部においては、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえながら、研究推進2年次として課題と方向性を明確にして研究実践を推進する。
- (3) 会員一人一人が、研究主題・副主題の趣旨を理解し、自校の生徒の実態に即応した、実効ある研究を推進する。
  - 生徒の実態をとらえ、課題を明らかにし、研究の有効性を的確に評価しながら継続的に研究実践を推進する。
- (4) 支部研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させる。
  - 各支部会員相互の研究実践に対する意識の高まりを促し、充実した運営を工夫する。
- (5) 各教科で発行している部報を適切に活用し、研究実践を推進する。
  - 日常的な研究実践に活用するとともに、主題研修報告会、研究協議会での活用を図る。

## 令和 5 年度研究推進計画 (案)

会 議 等	期 日	内 容 ・ 方 法
各支部専門部 総 会	4 月 21 日 (金) まで	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業計画の検討, 役員改選を行い, 研究の進め方を具体化する。</li> <li>2 部報等をもとに, 研究主題・副主題を確認し, 支部専門部としての研究の進め方について協議し, 研究推進計画と実践計画試案を作成する。</li> </ol>
支 部 専門部長会	5 月 11 日 (木) (福島市)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各専門部ごとに, 研究主題・副主題の確認及び事業計画の検討を行い, 役員を改選する。</li> <li>2 研究の進め方の細部調整を図る。 ◎ 県専門部長は, 事業計画・専門部組織を県総務部長に報告する。</li> <li>3 引き続き行われる主題に関する研修には各支部専門部長等が参加することとし, 資料として支部の研究推進計画等を 30 部印刷して持参する。</li> <li>4 資料をもとに, 次の事項について協議する。 (1) 研究主題・副主題の受け止め方についての共通理解 (2) 研究の具体的内容, 研究の方法と手順, 研究分担, まとめ方・発表の仕方の分担 (3) 支部報告会での伝達の仕方, 支部研究協議会・県研究協議会の持ち方等 (4) 県研究協議会参加者の資料書式を確認する。</li> <li>5 各支部専門部長は, 研究内容・方法を具体化して支部専門部に伝達する。</li> </ol>
支 部 専門部長会 報 告 会	5 月末日まで	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究内容, 研究方法, まとめ方等について報告する。</li> <li>2 報告内容をもとに, 支部専門部としての研究推進の具体細案を協議する。</li> </ol>
支 部 研究協議会	7 月下旬まで	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究分担による研究や各会員の研究を持ちよって協議し, 支部としての成果, 結論, 問題点をまとめる。</li> <li>2 県研究協議会参加者を決定し, 支部長に報告する。</li> <li>3 県研究協議会参加者 (発表者) は, 支部研究概要をまとめて, 所定の期日までに県研究協議会の 1 次案内で指定する学校にメールで送る。</li> </ol>
県研究協議会	10 月 5 日 (木) いわき大会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 県研究協議会参加者 (発表者) は, 要項等を県中教研のホームページからダウンロードし, 県研究協議会に臨む。</li> <li>2 発表者は, 支部の研究内容を中心に発表する。</li> <li>3 代表者は, 支部研究協議会の成果, 結論, 動向, 問題点などを報告したり, 課題となる協議事項を提案したりする。</li> <li>4 各部会では, 発表や協議内容をもとに成果や結論, 残された課題を明らかにする。</li> <li>5 開催支部の専門部では, 提案授業をもとに研究集録の原稿を作成し, 期日までに県専門部長に送付する。県専門部長は, 原稿を精査し, 期日までに県研究推進副部長に送付する。</li> <li>6 各支部では, 県研究協議会終了後, 各専門部ごとに報告会を持ち, 成果や課題を確認するとともに, 次年度以降の研究の進め方について協議する。</li> <li>7 県総務部長は大会 2 週間前までには, 県研究協議会の部会の指導助言者に県大会要項と研究主題解説の部報またはそのコピーを送付する。</li> </ol>
県 専 門 部 役員会・研究 推 進 員 会	11 月下旬まで	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門部ごとに役員会, もしくは研究推進委員会を開き, 県研究協議会の成果や反省をふまえ, 次年度以降の研究主題・副主題の解説, 研究の進め方, 事業計画について協議する。 ◎ 県専門部長は, その成果を支部専門部長に提案する。</li> </ol>
支 部 専門部長会	12 月～ 2 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門部年間事業を反省し, 次年度以降の研究の構想を話し合う。</li> <li>2 次年度以降の研究主題・副主題の解説, 研究の進め方, 研究のまとめ方, 研究の分担, 主題研修会, 支部研究協議会, 県研究協議会の持ち方, 発表支部・分科会の構成の確認, 次年度計画等を協議する。 ◎ 県専門部長は, 協議内容をもとに部報発行の準備をする。</li> </ol>
部 報 発 行	2 月末日まで	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門部ごとに, 「部報」を発行し, HP に掲載する。</li> <li>2 「部報」の主な内容は, 研究副主題の解説, 研究の進め方, 研究のまとめ方, 研究の分担, 支部研究協議会, 県研究協議会の持ち方, 発表支部・分科会の構成の確認, 次年度計画等とする。</li> <li>3 支部長を通じて, 支部所属会員に対してダウンロードを周知する。 ◎ 県専門部長は, 県研究推進部長に部報をデータで送付する。</li> </ol>
支部専門部会	2 月末日まで	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本年度のまとめと, 次年度以降の研究の進め方についての解説を行う。(支部専門部長会協議内容の伝達等)</li> </ol>

## 令和5年度基本主題及び各専門部研究主題

基本主題：主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成

専門部会	研究主題・令和5年度研究副主題
国語	<p>◎ 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうか。</p> <p>R5 思考力, 判断力, 表現力等を育成する指導の工夫</p>
社会	<p>◎ 持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育む社会科の指導はどうか。</p> <p>R5 多面的・多角的に事象を捉え, 考察する力を高める授業の工夫</p>
数学	<p>◎ 数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうか。</p> <p>R5 思考力, 判断力, 表現力等を育成する指導の工夫</p>
理科	<p>◎ 科学的に探究する学習活動を通して, 未来を創造するための資質・能力を育成する指導はどうか。</p> <p>R5 科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する単元構想の工夫</p>
音楽	<p>◎ 音楽的な見方・考え方を働かせ, 生活や社会の中の音や音楽, 音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導はどうか。</p> <p>R5 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る学習指導の工夫</p>
美術	<p>◎ 多様な見方や感じ方を深め, 心豊かに創造する力を育む造形活動はどうか。</p> <p>R5 多様な価値観を育む指導の工夫</p>
保健体育	<p>◎ 体育や保健の見方・考え方を働かせ, 生涯にわたって心身の健康を保持増進し, 豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうか。</p> <p>R5 運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善(体育分野)</p>
家庭	<p>◎ 生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ, よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうか。</p> <p>R5 主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫</p>
英語	<p>◎ 社会や世界と向き合い, 他者との関わりを大切にしながら目的や場面, 状況等に応じて, 情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうか。</p> <p>R5 情報や自分の考えなどを形成・再構築し, 伝え合うための指導過程の工夫</p>
道徳	<p>◎ 自己を見つめ, 他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうか。</p> <p>R5 自己を振り返り, よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫</p>
特別活動	<p>◎ 様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み, 集団や個人の課題を解決し, よりよい社会を創ろうとする生徒を育む指導はどうか。</p> <p>R5 集団活動への参画を通して, 課題を解決する力の育成</p>

# 令和 4 年度支部の活動状況

## 東西しらかわ支部

### 1 支部の状況

東西しらかわ支部は、東白川郡 4 校と白河市 8 校、西白河郡 6 校の計 18 校で構成されており、会員数は 257 名で、ここ数年ほぼ横ばいである。専門部は、9 教科と道徳、特別活動のほかに、支部独自の健康教育部会がある。各部会とも、会員の指導力向上を目指すとともに、喫緊の課題への対策も共有しながら、研修を進めている。

### 2 主な活動

今年度の主な活動は、以下のとおりである。

- 4 月 12 日(火) 支部総会・各専門部会
- 5 月 24 日(火) 支部主題研修会報告会  
～27 日(金)
- 7 月 25 日(月) 支部中教研夏の研究協議会  
(感染拡大防止のため中止)
- 10 月 27 日(木) 支部中教研秋の半日研修会  
(道徳・特別活動)
- 10 月 31 日(月) 支部中教研秋の半日研修会  
(健康教育部会)
- 11 月 1 日(火) 支部中教研秋の半日研修会  
(9 教科)
- 2 月 14 日(火) 支部中教研委員研修会

### 3 研究の成果と課題

- (1) 夏の研究協議会については、実施の方向で考えていたが、直前になって支部内の複数の中学校で感染が拡大したことから、急遽中止を判断した。
- (2) 秋の半日研修会では、県大会報告の他、各部会以下のように、先生方のニーズに沿った内容を考え、工夫しながら研修を深めた。
  - ・教科書会社によるデジタル教科書の説明
  - ・研究授業及び事後研究会の開催
  - ・県指導主事による全国学調の分析方法やそれを生かした授業改善についての研修
  - ・臨地研修としての企業訪問
  - ・焼き物の実技講習
- (3) 健康教育部会は、各校の養護教諭が所属している部会である。今年は、矢吹病院副院長を講師に招聘し、「不登校とこころの健康」と題して講話をいただいた。専門機関の方の話を聞くことで、各校の実態に応じた対応策を考えつつ、専門性を高めている。
- (4) 今後も感染状況を見ながら開催の判断をしなければならぬと思われる。中教研が先生方にとって有益かつ充実した研修となるよう模索していきたい。

## 耶麻支部

### 1 支部の実態

耶麻支部は、喜多方市、北塩原村、西会津町の 10 校で構成されており、会員数は 78 名である。専門部は各教科、特別の教科道徳、特別活動を設けており、教職員の指導力向上と中学校教育の充実を図ることを目指して日々実践研究と情報交換を行っている。小規模校が多く、年々会員数が減少しており、特に音楽、美術、技術・家庭、特別の教科道徳の所属会員が極めて少ない状況であるため、近隣の両沼支部と合同で活動している。

### 2 主な活動

今年度の主な活動は、次のとおりである。

- 4 月 14 日(木) 支部総会、専門部会
- 5 月 23 日(月) 支部主題研修報告会
- 7 月 27 日(木) 支部第一次研究協議会
- 10 月 6 日(木) 県中教研会津大会  
※ 兼支部第二次研究協議会
- その他

数学、理科、保健体育、美術部会においては、県中教研会津大会の授業提供のため、北会津支部、両沼支部、南会津支部と協力して指導案検討会等を随時実施した。

### 3 研究の成果と課題

- (1) 今年度、県中教研会津大会が開催されたため、昨年度から各教科専門部長を中心に、教材研究をはじめ、各部員が協力して研修を深めることができた。特に、県大会で授業を提供する教科については、専門部が会員相互の連携を深めるとともに、研究主題を詳しく分析して、県大会での提供授業を練り上げることができた。
- (2) 今年度の県中教研会津大会は、オンラインでの研究協議や、提供する授業を事前に録画して Web 上で配信する方法で実施したため、単に授業を提供することだけでなく、効果的な授業動画の録画方法等を各教科で試行錯誤しながら取り組んだ。その結果、各教科ではオンライン授業のあり方についての理解を深めるとともに、ICT を活用した授業動画の編集方法や効果的なオンライン会議等についても理解を深めることができた。
- (3) 会員数の減少に伴い、一部の教科では専門外である管理職だけの部会が存在するなど、魅力的な中教研のあり方について見直しが必要である。そのためにも、支部や各教科の実態に応じた柔軟な研究実践等を取り入れ、各会員が「中教研に入って良かった。」、「また、来年も中教研で研修したい。」と思える中教研を目指すために、支部全体で盛り上げていきたい。



# 専門部のあゆみ



## 数 学 部 会

**研究主題**「数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。」

**研究副主題**（1年次）「主体的に学習に取り組む態度を養う指導の工夫」

### 主な活動

- 県専門部総会 5月19日(木) パルセいいざか
  - ・令和3年度事業報告・決算報告
  - ・令和4年度役員選出
  - ・令和4年度事業計画案・予算案
  - ・県主題研修会
    - 研究主題・副主題の確認と研究の進め方
    - ・令和4年度県研究協議会会津大会
    - ・令和5年度版「数学の友」(部分改訂版)
- 主題研修報告会 5月下旬 各支部
  - ・県主題研修会報告
  - ・研究推進についての協議
- 研究協議会 7月下旬 各支部
  - ・研究実践発表と協議, 支部の研究のまとめ
  - ・県研究協議会(会津大会)参加者の決定(確認)
- 令和5年度版「数学の友」編集委員会 (13名)
  - ・第1回 9月8日(木) 岩瀬書店御山店
  - ・第2回 10月17日(月) 岩瀬書店御山店
- 県研究協議会会津大会 10月6日(木)
  - 喜多方市立第一中学校
  - ・公開授業(事前録画のWeb上での視聴)
    - 1年 落合伸一郎(喜多方一中)
      - 7章 データの分析と活用「データの活用」
    - 2年 鴨井 隆典(喜多方一中)
      - 7章 データの比較「学びを広げよう」
    - 3年 榎沼 勝(喜多方一中)
      - 8章 標本調査「標本調査」
  - ・分科会(オンラインによる)
    - 研究協議①(支部の発表)
    - 研究協議②(授業研究, 指導助言)
- 数学専門部支部長会 2月2日(木)
  - オンラインによる
  - ・令和4年度研究実践, 県研究協議会会津大会報告
  - ・令和5年度研究主題及び副主題の解説検討, 研究の進め方
  - ・令和5年度版「数学の友」発行
  - ・令和4年度「数学部報No.56」発行
- 数学部報発行 3月3日(金) 県中教研HP掲載

## 保 健 体 育 部 会

**研究主題**「保健体育の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。」

**副主題**（1年次）「運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善」(体育分野)

### 主な活動

- 県専門部総会・主題研修会 5月19日
  - 福島市 あづま荘
  - ・令和3年度事業報告
  - ・令和4年度事業計画, 役員改選
  - ・令和4年度研究内容と研究の進め方
- 主題研修報告会 5月下旬 各支部
  - ・県主題研修内容報告
- ワークブック編集会議 6月28日
  - 郡山市 片平ふれあいセンター
  - ・ワークブック内容の検討
  - ・編集計画の確認
  - ・編集作業
- 各支部研究協議会 7月下旬 各支部
  - ・研究実践発表
  - ・研究成果, 課題の共有
- 県研究協議会会津大会 10月6日
  - 喜多方市立第二中学校及びオンライン
  - ・授業(事前に動画視聴)
    - 球技(ネット型) バレーボール 渡部 泰子
    - 器械運動(マット運動) 小野里 武
  - ・研究協議会発表者
 

伊達支部	遠藤 修治(霊山中)
石川支部	鈴木 雅人(古殿中)
東西しらかわ支部	齋藤 啓(東北中)
	真部 春希(表郷中)
北会津支部	渡部 裕也(若松二中)
- 県研究協議会会津大会報告会
  - 10月下旬~11月上旬 各支部
  - ・公開授業, 研究協議, 指導助言内容の報告
- 部報発行 3月3日(金) 県中教研HP掲載

# 令和5年度 総会・支部長会・支部専門部長会についてのお知らせ

**令和5年度 総会・支部長会・  
支部専門部長会要項(案)**

○日時 令和5年5月11日(木)  
午前九時三十分～午後十六時三十分  
○会場 福島県青少年会館・福島支部の中学校  
(詳細は新年度に)

一日程

1 受付 九:〇〇～九:二〇  
2 総会 九:三〇～九:五〇  
3 支部長会 一〇:〇〇～一〇:二〇  
4 支部専門部長会 一〇:三〇～一〇:五〇

二 総会

1 開会のことば  
2 会長あいさつ  
3 決議報告 令和四年度会務報告  
① 第一号議案 令和四年度会務報告  
に關すること  
② 第二号議案 令和四年度決算承認  
に關すること  
③ 第三号議案 令和五年度運営方針  
並びに事業計画に關すること  
④ 第四号議案 令和五年度予算  
に關すること  
⑤ 第五号議案 令和五年度役員選出  
に關すること

4 新旧役員あいさつ  
5 令和五年度事務局員委嘱  
6 閉会のことば

三 支部長会

1 支部研究協議会の運営  
2 県研究協議会の運営  
3 支部運営の状況と問題点  
4 その他

四 支部専門部長会

1 部長・副部長の選出、事務局員の委嘱  
2 協議  
① 年間事業計画、予算の確認  
② 県研究協議会の運営  
③ 主題研修  
④ その他

## 令和5年度 福島県中学校教育研究協議会いわき大会要項(案)

### 1 目的

本県中学校教育研究会の設定した研究主題について、各中学校及び各支部の研究成果を持ち寄り、全県的な規模において研究協議し、会員の資質の向上を図るとともに、本県中学校教育の充実発展に資する。

### 2 基本主題

「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

### 3 主催

福島県中学校教育研究会

### 4 共催

福島県教育委員会

### 5 後援

福島県中学校長会  
福島県市町村教育委員会連絡協議会  
開催地区市町村教育委員会(いわき市)

### 6 協賛

公益財団法人日本教育公務員弘済会福島支部

### 7 期日

令和5年10月5日(木)

### 8 会場

専門部会	会場
国語科	いわき市立平第一中学校
社会科	いわき市立植田中学校
数学科	いわき市立中央台南中学校
理科	いわき市立小名浜第二中学校
音楽科	いわき市立泉中学校
美術科	いわき市立草野中学校
保健体育科	いわき市立玉川中学校
技術・家庭科	いわき市立磐崎中学校(技)
	いわき市立内郷第一中学校(家)
英語科	いわき市立平第二中学校
道徳	いわき市立小名浜第一中学校
特別活動	いわき市立錦中学校

### 9 参加者

各支部代表会員、各支部専門部長及び開催地区会員

### 10 日程

9:30	9:50	10:10	12:00	13:30	14:20	14:30	15:45
受付	開会式	研究協議① (支部発表・各支部の取組に關する協議等)	昼食 休憩	授業公開	移動	研究協議②・閉会式 (授業に關する協議)	

### 11 運営

(1) 本年度は、研究主題2年次である。

- (2) 各中学校において、各研究主題を自校の現職教育に取り入れ、具体的な研究実践を推進する。また、各支部において、各中学校の教育実践の成果を支部研究協議会で共有できるよう計画する。
- (3) 各専門部会の授業数及び分科会数は次の通りとする。

教科等	研究協議① 代表参加者 支部発表等	授業数	研究協議② 代表・開催地区 授業に關する協議
国語	3	3	3
社会	3	3	3
数学	3	3	3
理科	2	2	2
音楽	1	1	1
美術	1	1	1
保健体育	1	1	3
技術・家庭	2	2	2
英語	3	3	3
道徳	3	3	3
特別活動	2	2	2

- (4) 授業実施にあたっては、支部専門部あるいは県専門部との十分な連携のもと適切な授業研究に努める。また、支部専門部は、支部内における研究推進計画に基づき、授業実施に際しては組織的に支援する。
- (5) 開催地区においては、実行委員会を組織し、研究協議会の諸準備並びに運営に当たる。
- (6) 各専門部の責任者は、県専門部長と連携を密にし、適切な運営計画により事前の準備並びに当日の運営に当たる。特に専門部研究協議会は、研究主題及び副主題に沿って十分な協議ができるようにし、内容の充実を図るように努める。
- (7) 開催地区においては、地区内全会員が各専門部会の授業公開及び研究協議②に参加できるように配慮する。

### 12 研究のまとめ

研究実践の成果を「研究集録」としてまとめ、各中学校に配付する。

## ●—— 令和4年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 ——●

No	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	代表 高 澤 正 男	野 田 中	学 習 指 導	一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築 ～リーディングスキル・自力解決・振り返りを通して～
2	福 島	代表 阿 部 洋 己	松 陵 中	学 習 指 導	主体的・対話的に学ぶ生徒の育成 ～協働的に学ぶ授業づくりの工夫～
3	福 島	代表 佐 藤 力 夫	川 俣 中	学 習 指 導	主体的に学び続ける生徒の育成 ～『深い学び』につながる学習過程の工夫～
4	伊 達	代表 二 瓶 匡 弘	梁 川 中	学 習 指 導	自ら考え、表現し、共に高め合う生徒の育成 ～学びを深める学習サイクルの工夫（各教科と学年・学習集団の視点から）～
5	伊 達	代表 石 綿 厚	醸 芳 中	学 習 指 導	主体的に学習に取り組み、学び高め合う授業の創造 ～4つのステップを活かした問題解決的な学習を通して～（4年次）
6	安 達	代表 加 藤 広 明	小 浜 中	学 習 指 導	共に学び高め合う生徒の育成 ～深い学びにつながる振り返りと支援の工夫～
7	安 達	代表 三津間 勝彦	本 宮 二 中	学 習 指 導	新たな課題に挑戦し続ける生徒の育成 ～5つの「主体的な学び」の実現を目指す授業デザイン～
8	郡 山	代表 早 崎 保 夫	郡 山 二 中	学 習 指 導	主体的に学習に取り組む態度を育む指導と評価の工夫
9	郡 山	代表 古 川 浩	富 田 中	学 習 指 導	自ら考え抜く自立した学び手の育成（3年次） ～活用場面を設定した授業改善を通して～
10	郡 山	代表 高 山 良 勝	明 健 中	学 習 指 導	対話を通して学びを深め、高め合う子どもを目指して ～学習場面に応じたICTの効果的な活用を通じた「深い学び」の実現に向けて～
11	郡 山	代表 安 田 良 一	郡 山 三 中	学 習 指 導	「主体的・対話的で深い学び」を通じた学力向上（3年次） ～効果的なICT活用を基盤とした授業改善～
12	岩 瀬	代表 八木沼 孝夫	須 賀 川 一 中	学 習 指 導	主体的・対話的で深い学びを通して、生徒の可能性を伸ばす学習指導の在り方 ～思考力・判断力を高めるための言語活動の工夫～（2年次）
13	岩 瀬	代表 渡 部 幹 雄	湯 本 中	学 習 指 導	キャリア教育を通じた生徒の資質・能力の育成 ～アントレプレナーシップ教育の実践を通して～
14	石 川	代表 富 岡 信	石 川 中	学 習 指 導	「主体的に学び、学力の向上に努める生徒の育成」 ～個別最適化の学習を目指して～
15	田 村	代表 助 川 徹	船 引 中	学 習 指 導	主体的・対話的で深い学びを実現させた生徒の育成（2年次） ～「思考力、判断力、表現力等」の力を身に付け、自分の言葉で自分の考えを表現させる実践～
16	田 村	代表 佐久間 誠	常 葉 中	学 習 指 導	伝え合い、学び合う児童・生徒の育成 ～対話活動の充実を図る授業作り～
17	東西 しらかわ	代表 高 田 健 一	白 河 中 央 中	学 習 指 導	確かな学力を身につけ伸ばす授業の創造 ～協働的な学びを通して、自ら学ぶ意欲を育てる学習活動の工夫～
18	東西 しらかわ	代表 川 口 和 彦	東 中	学 習 指 導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創造 ～定着と活用のスパイラルを生かした授業の工夫～
19	北 会 津	代表 植 村 信	一 箕 中	学 習 指 導	思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫 ～教育クラウドプラットフォームの機能を生かした言語活動の充実～
20	北 会 津	代表 秋 山 了	磐 梯 中	学 習 指 導	主体的・協働的に学ぶ生徒の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を通して～
21	耶 麻	代表 板 橋 和 典	喜 多 方 一 中	特 別 活 動	生命の大切さを尊重して行動できる生徒の育成 ～様々な教育活動で、防災教育の指導の工夫や実践を通して～
22	両 沼	代表 野 口 幸 哉	金 山 中	学 習 指 導	「確かな学力を身につけ、生徒の自己肯定感を高める指導はどうあればよいか」 ～表現力やコミュニケーション力を育む学習指導の工夫を通して～
23	南 会 津	代表 飯 塚 敏 明	檜 枝 岐 中	道 徳	自ら伸びようとする児童生徒の育成 ～少人数教育・小中一貫教育を活かして～
24	南 会 津	教諭 中 島 史 弥	下 郷 中	社 会 科	社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力・表現力等の育成 ～単元を一単位として捉え単元構想とふくしま活用力育成シートを用いた授業の工夫～
25	相 馬	代表 松 本 一 宏	中 村 一 中	学 習 指 導	「思いや願いを育み、学びを深め合える生徒の育成」 ～リーディングスキルの視点を取り入れた授業改善と指導の工夫～
26	双 葉	代表 佐 藤 仁	葛 尾 中	総合的な学習 の時間	探究的な学習に主体的・協働的に取り組む生徒の育成（3年次） ～地域の人、もの、ことに関わる活動を通して～